

く、萬象畢とく照りうつりて、盡十方世界、是れ自己の光明、その間に、何ぞ醒あらんや、睡あらんや、他念なく、餘念なく、一念たゞ善のみ、一念徹底して、しかる後ち大覺に入る、大覺ありて大夢あり、大夢は夢なきなり。

## 靈格の發展

湧老名彈正氏

こは一月卅日夜瑞邦館に於て海老名氏が説かれたるものを筆記したるもの也。文字の責は一切余にあり(愚民)

例によつて今夜は聊か諸君に卑見を述べやうと思ふ。昨日縣會議事堂に於て御話した時も、聽衆の大多數は諸君であつたと見受けた。今夜は諸君に第二回目の演説をする様な感じがする。」

一 躰人格と云ふ語は、甚だ善い意味のものであるが、誤が生ずるので聊か困る。名高い學者でさへ人格の意味を人形にとつた例がある。これは大變な間違で、この誤を正すために靈格と云ふ語を用ひたらよいと思ふ。人格の價值は云ふ迄もなく靈格の値である。獨逸では之をベルグンリッヒカイトと云ふのだが、これも誤られ易い。ベルグンとは人を意味するので決して人形を意味するのではないが、人の人たる所はガイストにあるのだから、ガイストリッヒカイトと云つた方が適當であらうと思ふ。兎に角靈格と云ふ語を用ひて之を哲學的に解釋すれば誤が小さい。

さて靈格の發展には色々な方法がある。先づ日々の修養によりて發展する模様を話さう。一 躰昔と

今この社會觀には非常な相違がある。昔は靈格を發展せしむるに最も邪魔なものは形骸と物質であるとして居た。即ち宇宙本骸が靈覺であつてこの形骸の宇宙は無明である影であると觀じ去つた。座禪などやる人は大概こんなものである。性欲、娛樂を取らうとするのは猿が水中の月を攫まうとするのと同じで、宇宙は水中の月で決して本體でない、だから妄想を去つて同時に靈覺を明にせよと云ふ仕方である。しかしこれは中々骨が折れる仕事で思考ばかりでなく意志も之に伴はねばならぬ。情も殺さねばならぬ。かくて宇宙と戦ひ、スピリットを物から分離して自由にならうと云ふのである。印度から支那日本などに及んだ倫理は即ちこれである。

グリーキ人は之と全く反對で、物質界は全く實體であると考へた。そして非常に之を尊重し迷や影などとは決して思はぬ。従つて外界の研究を大事にしたのである。即ち印度人は哲學觀でグリーキ人は科學觀であると云つてもよい。又ユダヤの宗教を見ると、宗教としては不似合な程物體を重んじて、之を懺かな神の創造とし人間界は慕ふべく愛すべき物である。又靈は人にありとしたのである。舊約を讀んで見ると、靈となつた時、即人が死んだ時の事を、恰も闇無の世界に入つたかの如く悲しく云ひ現してある。かく物體を重んじた結果、蘇生と云ふ事を非常に大切にした。彼等に取つてはフオームを離れた靈は不明な影で、之に反してマツトルは非常に重大なものであつた。つまり物質界は尊く靈界は暗だと考へた。だから彼等は靈魂不朽の何たるを解しなかつたのである。西洋の新しい宗教思想は、即ちこの考とグリーキの科學的の考へからして導かれたものに外ならぬ。ローマ人などは極めて世界的で、周圍を同化して廣大なローマン、エシパイアを造つた程である。彼等が

人間界を組織する能力は非常なもので、世界を實躰として世界を造つたのである。現今の歐州思想は即ちこの考をも加味したもので、印度思想と西洋思想と合して成つたものとは大にちがつて居る。日本は全躰西洋的にゆく傾がある。ローマ思想は西洋に於て非常な勢力を有して居るが、印度思想の側から見ると極めて淺薄なもので、山中に座禪をなし思想の世界を作り、天地を影さするなどの事は決してない。日本は先づ最初に印度の法をやつてそれから西洋の法に移つたのである。或人は西洋的に物質界の發達を願ひ、哲學的のみを印度から得やうとするけれど、これは甚だ困難な問題であらうと思ふ。

今日は世界を妄想し去るべき時でない。大切な場所、眞實な物と見なくてはならぬ。是に於て修養の必要が起つて來るのである。西洋では天地を眞實であるとして研究した結果、人間は物質界の賜で、必然宇宙を支配する法則に支配せらるべき宇宙の一物質にすぎぬ。決してエラキものでも尊きものでもないと云ふ結論になつた。これが即唯物論で人力は物質的力である、故に物質界の法則によるべしと云ふのであつて、實際十八世紀から十九世紀に亘つた言説である。

所で、人は之に同意して、ハイ私は物質でありますとあきらめる事が出来るかと云ふに、決してさうでない。人は價尊きものである、物や何かと同一視さるべきものでないと云つて反抗して來る。この反抗は十九世紀の中頃からして今日に及んだものであるが、それは其善だと思ふ。人がもし一の物體であつて見れば宇宙間にあつて何の自由も獨立もないスレープでなくてはならぬ。自分の意志は外の神から支配さるべきものでない、自分には向上心もあり、井水もあり、我の智能は宇宙

を圖る事も出来る。之を物體とし又は物體の糠などとするのは以ての外である。我がメンタルの力は向上心、井ルの力は我自ら決すべきもので決して奴隸的のものでない。この思想は近世非常に有力なもので、私も之には至極同感である。又今日の青年が我々の様な者の講話を聞き度がつて居るのも、靈的自覺の第一歩であると思つて宜しい。

すでに自らスレーブでないとの反抗心を起し、我にバーチーを與へずんば死を與へよと叫ぶに至つた。人は物質、向上心は妄想だときめて仕まつたら實際人間として生きて居る價值は少しもないのである。露民は今や自由を得やうとして騒いで居るが、これよりも深遠な叫びが今日學生の間に起りつゝある。これ唯物論に反抗する最も勢力ある動力、即精神的動力である。

かく社會の趨勢が向つて來た時に、再び印度の哲人の如く世界を空と觀すべきものであるか否かは自ら明白な問題であらうと思ふ。科學は世界を眞實なものであると証明した。最早これは動かすべからざるもので、吾人が見る通り世界は實に大なる力である。引力、化合、電氣などの力は、到底見遁し尋べきものでない。そこで、我々は我の力と、向上心と、我の井ルの力とであらゆる物質の力と戦ふより外に仕方がない。即ちこれを征伏するのである。これが本統に學問の主意ではあるまいか。吾人はすべてを征伏して我のものとせねばならぬ否。すでに引力や化合や、電氣など皆我々のものとなしつゝあるのである。日露の戦争なども、終局は何れの國の精神が物をより能く使用するかの問題にあると思ふ。

それで又我々の發展の方法も變つて來ねばならぬ。昔は肉に力あり情に力ありと云つて、斷食する

か或は食物を減じて其の力を消さうと勉めた。だから物を食うにしても一切動物を食はないで菜食のみにした。終には悄然として幽靈の様に瘠せる。もうかうなれば肉欲も何もあつたものでない。しかし今日はそれではいかぬ。欲情を大に盛にして燃ゆるが如くせねばならぬ。全身欲情のかたまりとなつても宣しい。そして次にどうするかと云ふと、私の意志で以て之と戦ひ、之を征伏するのである。日露戦争なども敵のある丈の兵を沙河に集めて一打にして仕舞つたら宜からうと思ふ。昔の修養法と大に異なる点は即茲にあるので、欲情をアトモーストまで上せて置いて一度に之を追ひ拂ふのである。之は實に愉快な仕方だと思ふ。これで靈格の發展が出来るのである。

さて、始めにアニマル、パワーを抑へるには何が必要であるかと云ふと、名譽心である。名譽心は必ず肉に勝つ事が出来る。エライと云はるためには肉欲を抑へなくてはならぬ。大功名心を有して居た昔の人を見ると皆始めに肉を制して置いたのである。アレキサンダーがバビロンに死んだと云ふのも、察するに最早世界に取るべき土地がないので、ヤケを起して、飲め食へ死ねと云ふ事になつたらしい。さすがは英雄で、功名心が満たされる迄はドモ迄も肉欲を抑へたものだ。諸君も肉欲を盛にすると共に大に功名心を盛にしなくてはならぬ。

所で功名心と云ふものをよく調べて見ると、其中にパニチーと云ふものが含まれて居る。ハイカラなどは此種類で一才小供らしくてよい様であるが、其の隣にフールと云ふ奴がチャンと控へて居ることを忘れてはならぬ。大抵の學者や軍人などは矢張りこの部類に這入る。伊藤さんなんかも余程まだパニチーがあるらしい。一體役人なんかには、これに就いて殆んど滑稽に類する話が澤山

あるものだ。諸君はどうしてもこのパニチーを功名心の中から退けて仕舞はねばならぬ。

フエームと云ふ奴は、パニチーよりもやゝ高尚で名を後世に残す位の事は考へて居る。しかし其の心事を叩いて見ると眞實の靈格と云ふものはない。もし後の人が讃めて呉れなければ實際馬鹿な話である。しかし、名譽を得る丈の利益はあるからあまり悪くもない。又名譽と云ふのは至極重寶なもので、事業をなすに是非なくてはならぬ様な場合がある。

次に、何でも構はぬから兎に角自分の力で一つ大事業をやつて見ようと企てるものがある。これが即ちアンビションで、この中にはパニチーやフエームなども含まれて居るが、全躰其の目的とする所は事業にあるのだ。大事業を成し遂げやうとする心は、よくアニマル、パワーを退くるもので、又世界を動かす上に付いて、非常にこの方はリアライズさるゝものである。アンビションには大に取るべき所があると思ふ。

しかしこれ丈ではいかぬ。も一般高く上つて見るのが必要だ。諸君は皆自らの力を實現しやうと云ふ心を持つて居る。これは甚だ善い事であるが、もし出来なかつたらどうする。ヤケ糞となるより外に仕方があるまい。此時ヤケ糞にならないで、ウンとかうシツガリ構へる力は何處から出る。所謂これがプライドなんだ。アレキサンダーが亞細亞征伐の途中、グリーキで、哲人ダイオジニスに逢つた。御承知の通りダイオジニスは桶の中で日あたりをして居たが、色々話した末に、歴山が何か望があるなら叶へてやらうと云ふと、ダイオジニスは平氣なもので、日あたりが悪いから其のあたりを退いてくれと云つた。歴山もこれには感心して仕まつて、我歴山たらずんばダイオジニスた

らんと叫んだのである。思ふに其の意味は我アンビションを有せざればプライドを有せんと云ふにあるだらう。眞誠の大學者などは、多くプライドを有したものだ。プラトーが曾てダイオジニスを招待した。ダイオジニスは、奇麗に装飾したプラトーの室に、泥足のまゝ濶歩して曰く、我プラトーのプライドを蹂躪せんと、プラトー曰く、より大なるプライド也と。多くの人はプライド迄は進む事が出来る。禪坊主などを見ると九分通りまでは慥にプライドである。私にも以前この時代があった。私共の様な貧乏者には、至極都合がいゝもので、富者の前に立つて恥ぢざる事も出来る。又謙遜家なども多くプライドがあるもので、たれは謙遜して居るぞと、自分獨りて威張つて居る、プライドを盛にすれば實にエライもので、自ら一敵國を形成する事が出来る。甚しいのは無學で押し通すことも出来る。孟子が其の巍々たるを見る勿れ、と云つたのは、少し足りないもので、何構ふ事はない、尊い場所に行つても敖然として仰ぎ見るべしだ。これは實に男らしいもので、ハニチーやフェームなどは之から見ると殆んど馬鹿氣切つて居る。アンビションは中々エライが、やり損つた時にプライドがないと煩悶せねばならぬ。ナポレオンがセントヘレナに流され様とした時に一旦は死を決したのであつたが、後には我は我が運命を全くせんと叫ぶに至つた。これが即ちプライドで死よりも餘程エライ。彼はよく消極的に切り抜けたのである。大なる井ルとは即ちこれだ。

けれども、も一層高い所から見ると、これも一種のフルに過ぎない。ミルトンのパラダイスサストの中に、サタンが、我天國のスレーブたらむより、寧ろ地獄の王たらむと云つた事が書いてある。成程エライに違いないが、さう變テコに出なくても、もつと天真爛漫にやつて行けさうなものであ

る。喜怒哀樂を退けるのも宜しい。しかし意志意志と云つて終に本統の石ばかりになつてはつまらぬ。世には強盜、強姦などをやつて一向平氣な者もよくあるので、世間の風評なんか蚊がなく程にも感じて居ない。これも一種のプライドには違いないが。もうかう成つては駄目である。

キリスト曰く、我見る、汝等は神を愛するの愛なしと。實にこゝである。人間は理想の神を慕うて向上する心がなくてはならぬ。神を愛し、人を愛する心よりすべての事を行ふと云ふ事は實に氣高いものだと思ふ。己の心に是なるものは之を行ひ、惡なるものは之をすて、薄水を踏むが如し。勞を大にするなく善に誇るなし。能を以て不能に問ふ。流石に孔子は聖人である。意志は惡にも弱く善にも弱く、赤子の如くにして向上し、天下社會を愛するのが、即ち眞の靈格だ。こゝからプライドを見ると實に可笑しなものである。所で、バニチーもフェームもアンピシヨンも何もかも皆すてゝ仕舞ふかと云ふに決して左様ではない。皆夫々に之を使つて行かなくてはならぬ。つまり、自分がこれ等のものゝ上に主人公となるのである。茲が靈格の絶頂でもう之より上はない。私がキリストを尊敬する所以も即ち此点にあるのだ。其の他の人物には多少何か故障があるらしい。

私は以前肉慾や野心なんか皆棄てゝ仕まつて、プライドを最高のものとなして居た、しかしこのプライドをぬけて見れば實に冷汗が出る様な氣持がする。其後間もなく肉慾以下皆取かへす事が出来たので、今ではどんなに肉慾が發達してもちつとも構はぬ。又私は諸君より演説文はうまいと云ふ自信があるから、どんなに諸君が悪口しても、何にわたれの演説がわかるものかと澄して置くと云ふ『新』の文章がよくなつたと云はるれば、そこは文章に對してはまだ小供丈で非常に嬉しく感ずる。矢



張り今ではプライドもバニチャーもあるのである。諸君も肉慾は充分にあつてよい。又バニチャーや、フェームなども少し位はよい。アンビションは大にあつて欲しい。しかし高い所から之を支配すると云ふ事が必要である。即ち神之を成さしむれば我之を爲さんと云ふ心掛がなくてはならぬ。我は我丈の事をやるので、決して我を本位とするものではない。アンビションが破れてもかうして置けばあきらめが付く。又プライドも大によい。が然し、これもあまり多くては困る例へは大海の面を風が吹く様なもので、表面丈動いて居ればよい。底まで波が立つ様では浅いと云ふ事を示すのみである。カーライルがフイヒテを讀めたのも矢張り。プライドの点で、キリストがピラトの前で、我何をか云はんと頑張つたのも、同じくこれプライドである。が決してプライドのために全心を支配されたものではない。

眞に智に於ても情に於ても神に向つて向上し、神を愛する動機、人を愛する動機が自分を支配する様になれば、一身は實に高明正大なもので、暖かい光の世界に近づく様な感がある。宗教的脩養の極所は即茲である。これ人間の最も巧妙なる發展で靈格即人格はこゝを絶對の高所とするのである。

